

学生支援の現場から

◆茨城キリスト教大学

学生に活躍してもらおう、
そして力をつけてもらおう

藤田

(学生部長

悟
教授)

大学の存在価値は「研究と教育」にあるというのが、異論のはさみよのない正論ではあります。

しかし、学生支援という立場から見ると、高校までとは違った新しい環境に戸惑ってなかなか大学での生活に軌着できずうろろしている新入生がいたり、バイトにのめりこんで学業が疎かになっている学生、授業ははじめにこなしているようだけれども、どう見ても楽しそうにしている学生、家計が苦しくていくらバイトをしても間に合いない学生、そういう学生がたくさんいることが目につきます。もちろん、学業もクラブや自治会の活動も立派にこなしている「見上げた学生」もいます。さらに大学生は「お年頃」でもありますから、人間関係で舞い上がりたり落ち込んだりもします。

そういう全体を漠然と視野に入れながら、できるところ

をサポートすることで、大学全体をハッピーなコミュニケーションにしていける努力をするのが学生支援だろうと考えます。

本学（IC）の学生支援は、「学生に活躍してもらおう、そして力をつけてもらおう」をキーワードとしています。国際交流部が留学生の世話を見ながら交流する「バディ・システム」を、また、入試広報部がオープンキャンパスなどで高校生を案内したり学生生活について説明したりする「ICサポーター制度」を以前から展開してきましたが、その成果を踏まえて二〇〇九年度から次の六つのプロジェクトが「総合学生支援事業」として本格始動しました。

①特別の支援を必要とする学生をサポートする「学修支援バディ」は、必要な訓練を受けて授業中のノート・テキスト、パソコン・テイク活動をする学生のグループです。

②「IC寺子屋」は、教員が師範、中心になる学生が師範代となつて、特定のテーマの勉強会を運営するもので、資格・就職関連の勉強会や「地域社会問題研究会」、「聖書研究会」などが現在動いています。

③「ガキ大将クラブ」は、教職員がガキ大将となつて、学生を巻き込んだ趣味やボランティアの活動を展開します。イングリッシュ・プレイ・ハウス、アジアンボラン



どこでもネットを利用

ティアなどです。
④「どこでもネット」は、学内の各所に配置した（かつての公衆電話のような）インターネット端末のアップデー
トなど、メンテナンスを学生が担当します。



IC 交差点オープニングセレモニー

⑤コミュニティとしての大学の情報網になう「キャンパス・ペーパー」の試行版がすでに発行され、近いうちに定期刊行にこぎつけることができるか注目されています。
⑥「IC 交差点」という場を学内二箇所に設けました。さまざまな学内活動の接点となることが期待されています。熱帯魚を配したちよつとしゃれた空間で、学生のたまり場、情報交換の場、発表の場としての機能を持っています。



IC 交差点の熱帯魚

おのおののプロジェクトに運営側としてかわる学生はアルバイトとして扱われます。

本学では従来から、経済的理由により修学が困難な学生を対象とした授業料減免制度と、家計支持者の経済的事情の急変または災害等により修学が困難となった学生を対象とした応急的援助（同窓会奨学金制度）により学業の継続を支援しています。

しかし、昨年来の大不況の中、授業料の支払いはおろか生活を立てるのも非常に苦しいという学生も増加しています。二〇〇八年度は後期の授業料を半額免除するという特別救済措置を断行しましたが、大学も財政難です。何度までできることではありません。

総合学生支援事業では、キャンパスの活性化とともに、アルバイト雇用による学生の経済支援もささやかなものはあれ、一つの目的としています。



学生団体企画奨励金プレゼン